

第38回日本精神科病院協会精神医学会

【はじめ】

当院は、大阪岸和田市（人口 20 万）の山間部に位置する認知症に特化した病院であり、病床 534 床（一般病床 198 床、精神科病床 336 床）を有する。約 6 年前から物忘れ外来を開設している。当院の物忘れ外来は、週 2 回開催され、病歴聴取、診察、認知機能評価、脳 MRI（VSRAD 含む）、MRA（他施設連携）、脳 SPECT（他施設連携）を行い、即日診断し、薬物治療や認知リハビリテーションを含んだ治療方針決定を行っている。今回、当院での物忘れ外来の流れを説明し、診断、治療、転記などを分析し、若干の考察を加えて報告したい。

【方法】

平成 21 年 1 月から 12 月まで当院の物忘れ外来（毎週水曜日、土曜日）を受診した患者を対象に平均年齢、男女比、受診目的、診断名、HDS-R、脳 MRI、MRA 実施、脳 SPECT 実施、主な薬物療法の種類、認知リハビリテーション使用、転記について調査した。

【結果】

初診時平均年齢：80.2±8.2 歳

受診者数：76 名（男性 23 名：女性 53 名）

受診目的（2 つまで複数回答可）：確定診断 30 名、薬物治療 35 名、認知機能評価 4 名、対応相談 4 名、成年後見 1 名、継続治療 2 名、介護保険書類 3 名、BPSD 治療 5 名、脳トレーニング 4 名、入院 6 名、往診依頼 7 名、脳 CT 検査 1 名、セカンドオピニオン 1 名

診断名：アルツハイマー型認知症 32 名、脳血管性認知症 11 名、混合型認知症 7 名、レビー小体病 11 名、軽度認知機能障害 8 名、ピック病 2 名、アルコール性認知症 1 名、うつ病 1 名、脳梗塞急性期 1 名、診断保留 2 名

合併症：なし 10 名、高血圧・糖尿病・高コレステロール血症・高尿酸血症のいずれかを有する 52 名

HDS-R：測定不可もしくは 0～10 点 32 名、11～20 点 30 名、21～30 点 14 名

脳 MRI、MRA 実施 53 例、脳 SPECT 実施 8 例

主な薬物療法（複数回答可）：塩酸ドネペジル 19 名、アスピリン 14 名、抑肝散 11 名、リスペリドン 16 名

当院の脳トレーニング 8 名

転記：外来治療継続 19 名、入院 17 名、中断 33 名、往診 7 名

【考察】

今回、年間を通じてデータを解析したところ約半数の患者さんが、鑑別診断を希望され、10%の方が脳 SPECT を施行された。また 10%の方が、脳トレーニングに参加となった。一方、半数の方が受診時既に HDS-R において 10 点以下であり、また 1 年以内に 20%程度の方が入院となった。このことから、物忘れ外来は、早期診断に十分寄与しているとは言えず、さらなる早期診断を含めた地域への啓蒙が重要であると考えられた。